



E-mail: kouryuu@town.obuse.nagano.jp HP: http://www.town.obuse.nagano.jp/

まちづくり委員会 活動トピックス

3/9 第3回町議会議員と民館講堂で行いました。まちづくり委員から多くの質問が出され、詳しくお答えをいただきました。まちづくり委員会と議会は今後活発に意見交換を深めていくことになりました。

4/29 平成30年度の全体会議を開催しました。前年度の決算承認、新役員の選出や新たな予算承認、並びに規約改正を行い新たなスタートを切りました。元田新会長の方針案も了承されました。



6/16 『健やかな暮らしのために』

「農と食のこと」と題した講演会を開催しました。講師にNAGANO農と食の会吉田太郎氏をお招きし、遺伝子組換え農産物や除草剤のこと、なかなか知ることでない海外の最新情報などお話しいただきました。町内外から110名を越える方にお集まり頂き、ご参加くださった方からは、「とても勉強になった。」など様々なご意見が挙がりました。環境部会では、今後このような講演を企画していくと検討しています。



広報委員会 が誕生しました。

平成30年度より小布施まちづくり委員会の会則等が改正され、広報委員会が設立されました。主にまちづくりボイスを担当し、運営委員会へ代表を送り出すことになりました。まちづくりに関する町の情報取材も視野に取り組みたいと思います。よろしくお願いたします。(編集長 吉田健二)



自治会連合会の模擬避難演習を取材

Advertisement for 'ビアアーベント' (Beer Evening) on August 3rd at the Obuse Museum. Includes details on ticket prices (2,000 yen advance, 2,500 yen on-site) and a 'buy one get one free' offer on beer. Contact info: TEL:026-214-9102, FAX:026-247-3113, E-mail:kouryuu@town.obuse.nagano.jp

Advertisement for 'Bier Abend 2018' event. Features a graphic of beer glasses and text about the event on August 3rd at the Obuse Museum. Contact info: TEL:026-214-9102, FAX:026-247-3113, E-mail:kouryuu@town.obuse.nagano.jp

第4回「小布施まちづくり語り座」報告 5月11日(金) 公民館講堂

講師 桜井昌季さん 株式会社桜井甘精堂代表取締役/小布施文化観光協会会長 テーマ 経営者として見た小布施 小布施人として見た小布施

「和装」という、ダンディーな出で立ちで登場された本日の講師、桜井昌季さんは、冒頭では「如何にして桜井甘精堂の社長になったか」についての経緯をお話された。講話の中には、小布施菓菓子店の歴史を垣間見る機会にも恵まれたほか、桜井甘精堂がそもそも開設した本店所在地も初めて知ることが出来、思わぬ収穫もあった。ご本人は「一期『地平線への強いあこがれ』があった由、これも初めてお伺いする話であった。」



「観光地に何を求めるか?」という本論に入ってから講師の話術は実に巧みであり、聴講者全員がすくすくとその中へ入っていった。講師曰く、「優れた観光地であることは大変なものである。小布施町、上高地、美ヶ原、松本城、浅間温泉、黒部ダムの中で、いわゆる『ピート率』比較をされたことも講師の話術に引き込まれていった背景であった。さらには、一つの観光地事例として『彦根市』を挙げておられたが、『また行きたい』とは思わない。飽きてしまう」との感想は、観光地としての本来あるべき姿を示唆している。



「観光地に何を求めるか?」という本論に入ってから講師の話術は実に巧みであり、聴講者全員がすくすくとその中へ入っていった。講師曰く、「優れた観光地であることは大変なものである。小布施町、上高地、美ヶ原、松本城、浅間温泉、黒部ダムの中で、いわゆる『ピート率』比較をされたことも講師の話術に引き込まれていった。さらには、一つの観光地事例として『彦根市』を挙げておられたが、『また行きたい』とは思わない。飽きてしまう」との感想は、観光地としての本来あるべき姿を示唆している。

編集後記 新会長の下で開催された前回の運営委員会は大変痛快でした。「10年後のまちづくり委員会」を追い求め、これからの議論が楽しみです。(内山) * 各部会の事業計画は如何でしたか?是非皆さんもご参加ください。(花村) * 空梅雨を思わせる天候が続いていたと思ったら梅雨明け。平年より22日も早かったのですね。(市村) * 4日連続猛暑日。今年は特に熱中症に気を付けなければ。(横山) * 巻頭のタイトルデザインを一新しました。いかがでしょう? (奥田) * 今年は無事に迎えたもので秋を無事に迎えたものです。(工藤)

あなたも「まちづくり委員会」に参加しませんか! 様々な立場の人が自由に意見を交わし、住みよいまちづくりを考え実践する場として、平成20年にスタートしました。「安全」「環境」「福祉」「交流」「共育」「定住促進」の6つのテーマごとに部会を設け、月に1回くらいのペースで集まって活動しています。そんなまちづくり委員会にあなたも参加してみませんか。参加をご希望の方は、下記事務局へお申し込みください。 小布施まちづくり委員会事務局 Tel:026-214-9102 Fax:026-247-3113 E-mail: kouryuu@town.obuse.nagano.jp

まちづくり委員会——11年目の挑戦

※まちづくり委員会は自由な議論の中で合意形成・課題解決を図る誰にでも開かれた町民活動の場です。まちづくり委員も随時募集しています。

町民の皆さんのご理解とご協力をよろしくお願いたします。

私たちはこの目的を共有し、より多くの声の集約と町民が持つ知恵や力をまちづくりに活かすために次の10年に向けてスタートします。

「本会は暮らしやすく住む喜びのある町民主体の自治に向けて、より多くの声の集約と町民が持つ知恵や力をまちづくりに活かすことを目的とする。」

小布施まちづくり委員会には委員会の目的について次のように記載されています。

し、委員会の価値観を共有できるようにします。そして連携や協働、交流を町民の皆さんと共に推進します。

さて、小布施まちづくり委員会11年目の本年度は、次の10年の姿の土台をかたちにする1年間にしたいと思います。具体的には委員が小布施まちづくり委員会の原点に戻り、役割や目的を再確認



小布施まちづくり委員会
会長 元田和行

交流を考える部会

部会長 芋川恵子

まちづくり委員会が発足してから10年がたちました。自分たちができるまちづくりってなんだろう?と考えたとき、そこに住む人たちが仲良く、楽しく日々を過ごしている。これが一番と考えます。今年は気持ちも新たに、委員自らが楽しめる場を目指したいと思います。

催し、義援金を送ってきましたが、今年からは、夏の一夜を町民が集い、飲んで交流を楽しむ場づくりをするというのが目的です。

その他

夏休み中のスイカ割とお絵かき体験
12月下旬の餅つき大会
2月の異文化交流会
など計画しています。
新しい試みとしては十日町の方たちとの交流を予定しています。

予算総額 153,000円 ピアアイベント 105,000円/スイカ割・お絵かき体験 10,000円/餅つき大会 13,000円/地域の人たちとの交流研修 25,000円

安全を考える部会

部会長 塩尻利一

■事業目的

安全・安心のまちづくりを築くために防災と防犯のまちづくり推進課題を検討し、調査・分析・課題抽出、新規提案を行う。

■主な事業

- ①防災教育=防災・減災・縮災について知識を高める
- ②小布施方式の避難所運営ゲームのカードづくり
- ③随時検討課題の防災グッズを製作し六斎市で展示する
- ④青パトのユニフォームを購入し、啓発活動を充実させる



堀込公民館長による防災講義4/16

予算総額 200,000円 防災教育講師養成 50,000円/避難訓練計画カード作成 50,000円/グッズ制作 10,000円/青パト啓発用ベスト6着 30,000円/イベント経費 60,000円

共育を考える部会

部会長 市村良江

脳科学リーフレット「乳幼児期を大切に〜脳をしっかりと育てよう〜」が完成しました。これは、乳幼児期の子どもの成長が重要であることを多くの保護者や町民の皆さんに理解してほしいとの取り組みをかたちにしたもので、本年度は、この内容を多くの皆さんにお伝えすることが活動の中心となります。

時の本と一緒に保護者の皆様に配布いたします。また保育園、子ども園の保護者の皆様にも配布したいと時期等を検討中です。「おぶせ未来共育会議」(第7回)も、リーフレットに沿った内容を計画中です。多くの保護者、地域の皆様にご参加いただきたいと思います。

います。泰阜村の「いだいらぼっち教育施設」を見学し、参考とする予定です。



予算総額 187,000円 おぶせ未来共育会議 90,000円/その他 97,000円 ※できるだけ効率よく、経費をかけない活動を心掛けていきます。

環境を考える部会

部会長 工藤陽輔

今年度も、生ごみリサイクル土作り(栗ガ丘小学校4年生向け、一般向け)、めぐる元気野菜の普及活動を行っていきます。生ごみを有効に活用し、微生物(菌ちゃん)を使った農法をさらに広げるために、6次産業センター内に「菌ちゃん農園」を設け、どなたでも参加できる菌ちゃんファンクラブ(随時募集中)として活動しています。人参、カボチャ等を

作付けし、秋に収穫祭(野菜スープのふるまい、めぐる野菜の販売等)を計画しております。皆様のご参加お待ちしております。

世界を比較すると、日本は世界の流れとは異なる方向に進んでいます。そんな中、環境部会としても、皆様が安心して暮らせるよう、農と食について考える機会を設けて、小布施町オリジナルの農業推進計画を作成したいと考えております。

予算総額 160,000円 土づくりワークショップ 30,000円/講演会 50,000円/収穫祭 50,000円/野菜成分分析 30,000円

定住促進を考える部会

部会長 横山雄一

みんなで空き家のことを考えよう
当部会は発足から4年目を迎えました。「小布施町に住みたいけれど、物件がなく断念する方がいる」ということから、まずは空き家を探して空き家バンクに掲載すれば定住につながると考えました。今、個人情報と物件所有者様の意向という、壁に突き当たっています。当部会はわずか6、7名(!)という少人数で議論

しています。それもほとんどが移住者で、町を代表しているとはとてもいえません。自分の町のことは自分で決める、これが小布施町の流儀と、私は勝手に理解していますが、空き家問題についても自分達で決めなければなりません。広く住民が参加して空き家の利活用を考え、実現するための提言を今まとめています。今年中には提出できると思います。

この文章を読んでいただいている方、あなたの力が必要です。

予算総額 90,000円 空き家活用セミナー関連85,000円/他自治体等との交流5,000円

福祉を考える部会

部会長 花村一三

須高3市町村では地域医療福祉ネットワーク推進室を立ち上げ、住民が住み慣れた地域で安心して健やかに生活できることを目的に活動しています。その中で、幾度となく「リビングウィル」について議論されてきました。直訳すると「生前の意思決定」。尊厳死の権利を主張することも意味します。須崎市では救命や蘇生処置に特化した「エンディ

ングノート」を作成し市民に配布しています。福祉部会では、今までの人生を振り返ることにより今後の人生をより充実した内容の目標や計画が出来ると考え、リビングウィルはその一部と考えています。町長は「いろいろな生き方を応援できる小布施町」と発言。また若者会議では、「自分史」の導入について取り組んでおり、これは福祉部会の考え方

にもマッチするもので、協同していればと4月に1回目の打合せを終えたところ。今後は小布施スタイルの自分史+エンディングノートと、ユニークな町民への導入方法について提言できるようにしたいと思います。

予算総額 50,000円 エンディングノート作成 50,000円